



図 4.4.1 (7) 陸域植物調査地点



図 4.4.1 (8) 景観調査地点

#### 4.4.2 予測方法

事業の実施が周辺地域の環境に及ぼす影響を予測する項目、方法、対象地域及び対象時期は、表 4.4.3(1)～(4)に示すとおりである。

表 4.4.3(1) 予測手法の内容（施設の存在、利用）

予測項目	予測事項	予測方法	予測対象地域	予測対象時期	
大気質	施設の 供用	二酸化窒素、浮遊粒子 状物質の年平均値	大気拡散式（プ ルーム・パフモデル） による数値計算	事業計画地周 辺	施設利用時
	施設 関 連 車 両 の 走 行	二酸化窒素、浮遊粒子 状物質の年平均値	大気拡散式（プ ルーム・パフモデル） による数値計算	施設関連車両 の走行ルート	施設関連車両 の台数が最大 となる時期
水質	施設の 供用	化学的酸素要求量、全 窒素、全リン、溶存酸 素量の夏季平均値	多層富栄養化モデ ルによる数値計算	事業計画地周 辺の海域	施設利用時
底質	施設の 供用	化学的酸素要求量、全 窒素、全リンの汚染の 程度	事業計画の内容、 水質の予測結果等 を基に推定	事業計画地周 辺の海域	施設利用時
騒音	施設の 供用	等価騒音レベル	騒音伝搬計算式に よる数値計算	事業計画地周 辺	施設利用時
	施設 関 連 車 両 の 走 行	等価騒音レベル	日本音響学会式 （ASJModel-2018） による数値計算	施設関連車両 の走行ルート	施設関連車両 の台数が最大 となる時期
振動	施設の 供用	振動レベルの 80%レ ンジ上端値	振動伝搬理論計算 式による数値計算	事業計画地周 辺	施設利用時
	施設 関 連 車 両 の 走 行	振動レベルの 80%レ ンジ上端値	土木研究所提案式 による数値計算	施設関連車両 の走行ルート	施設関連車両 の台数が最大 となる時期
低周波音	施設の 供用	G 特性音圧レベル	距離減衰式による 数値計算	事業計画地周 辺	施設利用時
悪臭	施設の 供用	悪臭指数	大気拡散式による 数値計算	事業計画地周 辺	施設利用時
廃棄物	施設の 供用	廃棄物の種類、発生 量、リサイクル量	事業計画の内容、 類似事例等による 推定	事業計画地	施設利用時
地球環境	施設の 供用	温室効果ガス（二酸化 炭素）の排出量	原単位法による推 計	事業計画地	施設利用時

表 4.4.3(2) 予測手法の内容（施設の存在、利用）

予測項目		予測事項	予測方法	予測対象地域	予測対象時期
動物 (陸域)	施設の 供用	陸域動物の生息環境 の改変の程度	事業計画の内容、 現地調査結果等を 基に推定	事業計画地周 辺	施設利用時
動物 (海域)	施設の 供用	海域動物の生息環境 の改変の程度	事業計画の内容、 水質・底質の現地 調査結果及び水質 予測結果等を基に 推定	事業計画地周 辺の海域	施設利用時
植物 (海域)	施設の 供用	海域植物の生育環境 の改変の程度	事業計画の内容、 水質・底質の現地 調査結果及び水質 予測結果等を基に 推定	事業計画地周 辺の海域	施設利用時
生態系 (陸域)	施設の 供用	生態系に対する影響 の程度	事業計画の内容、 動物、植物の予測 結果等を基に推定	事業計画地周 辺	施設利用時
生態系 (海域)	施設の 供用	生態系に対する影響 の程度	事業計画の内容、 動物、植物の予測 結果等を基に推定	事業計画地周 辺及び周辺の 海域	施設利用時
景観	施設の 存在	代表地点からの眺望 の変化の程度	フォトモンタージ ュの作成による方 法	事業計画地周 辺	施設存在時
自然との ふれあい 活動の場	施設 関 連 車 両 の 走行	車両の走行による利 用者への影響の程度	事業計画の内容等 による推定	事業計画地周 辺	施設関連車両 の台数が最大 となる時期

表 4.4.3(3) 予測手法の内容（建設・解体工事中）

予測項目		予測事項	予測方法	予測対象地域	予測対象時期
大気質	建設機械の稼働	二酸化窒素、浮遊粒子状物質の年平均値	大気拡散式（プルーム・パフモデル）による数値計算	事業計画地周辺	工事最盛期
	工事関連車両の走行	二酸化硫黄の年平均値	大気拡散式（プルーム・パフモデル）による数値計算	事業計画地周辺	工事最盛期
		二酸化窒素、浮遊粒子状物質の年平均値	大気拡散式（プルーム・パフモデル）による数値計算	工事関連車両の走行ルート	工事最盛期
水質	土地の改変	浮遊物質量（SS）	事業計画の内容、現地調査結果等を基に推定	事業計画地周辺の海域	工事中
		水素イオン濃度（pH）	事業計画の内容、現地調査結果等を基に推定		
騒音	建設機械の稼働	騒音レベルの 90%レンジ上端値	日本音響学会式（ASJModel-2007）による数値計算	事業計画地周辺	工事最盛期
	工事関連車両の走行	等価騒音レベル	日本音響学会式（ASJModel-2018）による数値計算	工事関連車両の走行ルート	工事最盛期
振動	建設機械の稼働	振動レベルの 80%レンジ上端値	振動伝搬理論計算式による数値計算	事業計画地周辺	工事最盛期
	工事関連車両の走行	振動レベルの 80%レンジ上端値	土木研究所提案式による数値計算	工事関連車両の走行ルート	工事最盛期
廃棄物・残土	土地の改変・解体	廃棄物・残土の発生量、有効利用等	事業計画の内容等による推計	事業計画地	工事中

表 4.4.3(4) 予測手法の内容（建設・解体工事中）

予測項目		予測事項	予測方法	予測対象地域	予測対象時期
動物 (陸域)	建設機械の稼働、土地の改変	陸域動物の生息環境の改変の程度	事業計画の内容、現地調査結果等を基に推定	事業計画地周辺	工事中
動物 (海域)	土地の改変	海域動物の生息環境の改変の程度	事業計画の内容、水質・底質の現地調査結果及び水質予測結果等を基に推定	事業計画地周辺の海域	工事中
植物 (陸域)	土地の改変	陸域植物の生育環境の改変の程度	事業計画の内容、現地調査結果等を基に推定	事業計画地周辺	工事中
植物 (海域)	土地の改変	海域植物の生育環境の改変の程度	事業計画の内容、水質・底質の現地調査結果及び水質予測結果等を基に推定	事業計画地周辺の海域	工事中
生態系 (陸域)	建設機械の稼働、土地の改変	陸域動物の生息環境の改変の程度	事業計画の内容、動物、植物の予測結果等を基に推定	事業計画地周辺	工事中
生態系 (海域)	土地の改変	陸域動物の生息環境の改変の程度	事業計画の内容、動物、植物の予測結果等を基に推定	事業計画地周辺の海域	工事中
自然とのふれあい活動の場	工事関連車両の走行、土地の改変	野外リクリエーション施設等の改変の程度、車両の走行による利用者への影響の程度	事業計画の内容等による推定	事業計画地周辺	工事最盛期

#### 4.4.3 評価方法

環境影響の予測結果については、生活環境、自然環境の保全等の見地から客観的に評価するため、表 4.4.4(1)、(2)に示す評価の観点をもとに、環境影響項目毎に環境保全目標を設定し、評価する。

表 4.4.4(1) 評価の観点

項目	評価の観点
大気質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・環境基本法に定められた環境基準の達成と維持に支障がないこと。</li> <li>・大気汚染防止法、大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた排出基準、総量規制基準、規制基準等に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標、方針の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
水質・底質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・環境基本法、ダイオキシン類対策特別措置法に定められた環境基準の達成と維持に支障がないこと。</li> <li>・水質汚濁防止法、ダイオキシン類対策特別措置法、大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた排水基準、総量規制基準等に適合すること。</li> <li>・瀬戸内海環境保全特別措置法に定められた許可基準に適合すること。</li> <li>・窒素及びその化合物並びに磷及びその化合物に係る削減指導方針（平成 8 年 7 月 24 日 大阪府告示第 1244 号）に基づく水質管理値に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> <li>・事業により底質の汚染を進行させないこと。</li> </ul>
騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・環境基本法に定められた環境基準の達成と維持に支障がないこと。</li> <li>・騒音規制法や大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた規制基準に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・振動規制法や大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた規制基準に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
低周波音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・悪臭防止法に定められた規制基準に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
廃棄物・残土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・廃棄物等の発生量が抑制され、発生する廃棄物等が適正に処理されていること。</li> <li>・廃棄物の処理及び清掃に関する法律に定められた規制基準等に適合すること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・温室効果ガスやオゾン層破壊物質の排出抑制に配慮されていること。</li> <li>・太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入やエネルギーの使用の合理化に努めるなど適切な措置が講じられていること。</li> <li>・大阪市環境基本計画の目標の達成と維持に支障がないこと。</li> </ul>

表 4.4.4(2) 評価の観点

項目	評価の観点
動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・法令を遵守するとともに、国、大阪府及び大阪市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> <li>・事業計画地周辺における陸生動物、海域動物の生育・生息環境に著しい影響を及ぼさないこと。</li> <li>・事業計画地周辺における陸域動物、海域動物の生育・生息環境の創出に配慮していること。</li> </ul>
植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・法令を遵守するとともに、国、大阪府及び大阪市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> <li>・事業計画地周辺における陸生植物、水生植物の生育環境に著しい影響を及ぼさないこと。</li> <li>・事業計画地及び事業計画地周辺において、陸生植物、水生植物の生育環境の創出に配慮していること。</li> </ul>
生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。</li> <li>・法令を遵守するとともに、国、大阪府及び大阪市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> <li>・事業計画地周辺の生態系に著しい影響を及ぼさないこと。</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある都市景観の形成及び周辺都市景観との調和に配慮していること。</li> <li>・大阪市景観計画、その他景観法及び大阪市都市景観条例等に基づく計画又は施策等の推進に支障がないこと。</li> </ul>
自然とのふれあい活動の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい活動の場の改変等に対して、適切な配慮がなされていること。</li> <li>・ふれあい活動の場に対する影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li> </ul>